

日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 10 回

日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

抄録集

大会長 加藤 美穂子

会 期 2024 年 3 月 23 日 (土)

会 場 TKP 名鉄名古屋駅カンファレンスセンター

第 10 回日本頭蓋健診治療研究会学術集会事務局

第 10 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

第 10 回日本頭蓋健診治療研究会・学術集会

大会長 加藤 美穂子

この度、第 10 回日本頭蓋健診治療研究会学術集会を名古屋で開催させていただきます。「赤ちゃんの頭のかたち」に関する注目は高まる一方で、同時に情報の氾濫も招いています。保護者の皆様が情報に翻弄されず「子どものためにできること」に辿り着くためには、医療者の適切な判断と対応が必要です。

そこで、今回は「頭のかたちに関する Do's and Don'ts」というテーマで、赤ちゃんの頭のかたちに関する相談を受ける様々な専門領域の皆様と意見交換し、医療者が知っておくべき Do's and Don'ts について議論したいと思っています。

まず、基調講演として草川先生に『人間にとって頭のかたちとは』というテーマでご講演いただきます。その後は Do's and Don'ts それぞれに関する演題発表に続き、各専門領域を代表する先生方とパネルディスカッション「どう考える？頭のかたち」として議論の場を設けます。各専門領域はそれぞれの特徴というべき高い専門性に立って医療に携わっています。そこには専門家ならではの知識や経験が蓄積されています。その叡智を集めてこそ、「子どものためにできること」が見えてくるのではないのでしょうか。

今回も Hybrid 開催です。たくさんの皆様にご参加、ご参集いただき熱い議論が交わせずことを願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

1. 会 期

2024 年 3 月 23 日 (土)

2. 会 場

TKP 名鉄名古屋駅カンファレンスセンター (ハイブリッド開催)

3. テーマ

「頭のかたちに関する Do's and Don'ts」

4. 大会長

あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科部長 保健センター長 加藤美穂子

プログラム

基調講演 「人間にとって頭のかたちとは」

座長 楠田 聡 東京医療保健大学大学院 小児科 臨床教授

演者 草川 功 0歳からの頭のかたちクリニック 顧問 医師

セッション1：Do's

座長 杉田 依里 新大塚こどもクリニック 院長

演者 三輪田 俊介 ナゴヤガーデンクリニック 小児科 部長

「頭蓋変形に対する新しい小児科診療」

長倉 正宗 あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科 医長

「頭のかたち外来で見える事、見るべき事」

内尾 優 東京医療学院大学 保健医療学部 助教

「位置的頭蓋変形予防を目的とした発達支援の方法」

セッション2：Don'ts

座長 佐藤 義朗 名古屋大学医学部附属病院 新生児部門 病院准教授

演者 加藤 美穂子 あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科部長 保健センター長

「ヘルメット治療中に危惧すること」

西巻 滋 0歳からの頭のかたちクリニック 顧問 医師

「現場の悩みと家族の悩みーヘルメット治療の適応を考えるー」

パネルディスカッション 「どう考える？頭のかたち」

座長 加藤 美穂子 あいち小児保健医療総合センター 脳神経外科部長 保健センター長

演者 吉田 丈俊 富山大学周産母子センター センター長 教授

五味 玲 自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児脳神経外科 教授

坂本 好昭 慶應義塾大学 医学部 形成外科 講師

小室 広昭 0歳からの頭のかたちクリニック 理事長 医師

江藤 宏美 長崎大学 生命医科学域保健学系 教授

基調講演『人間にとって頭のかたちとは』

○草川 功 0歳からの頭のかたちクリニック

人類の進化過程で、顔貌、頭のかたちは大きく変わってきた。そして、その後も人間が頭のかたちに高い関心を示していたことは、強制装具による頭蓋変形の歴史をみれば明らかである。また、頭のかたちの変遷は、人種的な違い、生活様式の違いなど人類社会学的にも興味深いものである。日本人は、江戸時代までは前後にがっちりとした頭だったものが明治時代以降、現在のように前後系の短い丸い頭になってきたといわれている。1992年のSIDS予防のおおむけ寝キャンペーンにより、斜頭症が劇的に増えた欧米に比し、仰向け寝が中心であった丸い頭の日本では大きな問題にならなかったことが、欧米と日本との位置的頭蓋変形に対する現在の認識の差になったことは歴史の流れの中では必然であったかもしれない。しかし、時を経て、日本においても頭のかたちをもう一度真剣に考える時が来たのではないだろうか？

セッション 1:Do's

頭蓋変形に対する新しい小児科診療

○三輪田 俊介 ナゴヤガーデンクリニック

頭蓋縫合早期癒合症は1例/2000 - 2500 出生程度(0.04 - 0.05%)の希少疾患で、早期発見が望まれる。頭の歪みのある児は頭蓋縫合早期癒合症の有病率が高く、当院では1540例に頭部単純レントゲンによる鑑別を行い、5例(0.3%)を診断した。また、「向き癖」に伴う位置的頭蓋変形も運動発達遅滞や先天性股関節脱臼、筋性斜頸が原因で頭の歪みが生じている症例を適切に診断し、治療や発達指導による介入を早期に行うことが大切である。頭の歪みを心配される児は3D スキャンで歪みを数値化することは親御さんの安心に繋がり、重度の歪みがある症例には頭蓋矯正ヘルメット治療の選択肢を提示することも必要であると考えられる。以上から頭の診察から疾患や親御さんの不安を解決していくことができる頭の形外来の存在意義は大きいと考えている。

頭のかたち外来で見える事、見るべきこと

○長倉 正宗 あいち小児保健医療総合センター

頭蓋骨癒合症の診断は頭のかたち外来の重要な役割であるが、画像検査の必要性や方法については様々な議論がある。また成長発達に不安を抱えながら頭のかたち外来を受診される症例も散見される。今回画像検査の必要性と成長発達 follow の重要性について、代表症例を基に考察する。症例：7歳男児。左後頭部の凹みあり、生後8ヶ月からヘルメット治療が実施された。一旦は頭蓋変形の改善得られたが形態異常の再燃と共に発達遅滞が明らかとなった。2歳8ヶ月時に当センターを受診された。矢状縫合早期癒合症を認め、2歳11ヶ月で頭蓋形成術を実施した。

位置的頭蓋変形予防を目的とした発達支援の方法

○内尾 優 東京医療学院大学

位置的頭蓋変形を早期から予防する方法として米國小児学会は、Tummy Time いわゆる「うつぶせ遊び」を推奨している。これは、児が起きているときに保護者の観察のもとうつぶせにして遊んで過ごす時間を作ることである。しかし、児のなかにはうつぶせにすると泣いてしまう、反り返ってしまう、などの理由からうまく実施できないといった相談をご家族から受けることがある。そこで本発表では、理学療法士の立場から児の月齢や発達段階に応じた発達支援の方法（うつぶせ遊びを中心に）について考えていきたい。

セッション 2: Don'ts

ヘルメット治療中に危惧すること

○加藤 美穂子 あいち小児保健医療総合センター

脳神経外科では水頭症や軟骨形成不全症などに代表される大頭性疾患の治療を行っている。通常でも乳幼児の頭は大きいですが、疾患による場合はその傾向が顕著となり、体の重心はより高い位置になる。また、発達に若干の遅れを認めることも多く、日常生活における注意点をご家族に説明している。ヘルメット治療中は人為的に大頭状態となっており、大頭性疾患を参考にした日常生活の留意点があると考えている。脳神経外科医の立場からヘルメット治療中に危惧されることを報告する。

現場の悩みと家族の悩みーヘルメット治療の適応を考えるー

○西巻 滋 0歳からの頭のかたちクリニック

ヘルメット治療の現場では、診察、適応そして治療効果の判定に悩むことがある。その悩みを頭蓋変形の性質や特徴から検討したい。

(1) ヘルメット治療の効果や必要性があるのか？

長頭症でヘルメット治療をした17例と治療をせずに経過観察をした10例で長頭の改善を比較した。両群の改善の度合いに大きな差はなく、長頭症ではヘルメット治療効果が乏しいと考えられた。

21トリソミーでヘルメット治療をした2例では、特に短頭に対する治療効果は弱かった。

(2) ヘルメット治療が続けられるのか？

ヘルメット治療を嫌がる例を経験する。頭部の皮膚の知覚過敏が理由に考えられるが、当院では2例(約0.1%)を経験した。その経過を提示する。

(3) 家族の心配にどう対応するのか？

短頭症の計測部位は家族の心配する部位とずれる場合がある。その対応を検討する。

パネルディスカッション：「どう考える？頭のかたち」

座長

○加藤 美穂子 あいち小児保健医療総合センター

演者

○吉田 丈俊 富山大学

○五味 玲 自治医科大学とちぎ子ども医療センター

○坂本 好昭 慶應義塾大学

○小室 広昭 0歳からの頭のかたちクリニック

○江藤 宏美 長崎大学

近年、赤ちゃんの頭のかたちに注目が集まっている。これは乳幼児突然死症候群のリスクであるうつ伏せ寝を避けるべきとする the Back to Sleep campaign（1994年）に端を発しているが、今世紀に入り我が国でも取り上げられる様になった。特徴的な頭のかたちを示す場合、疾患に伴う変形であることにも留意する必要がある、単純に「形の問題」と片付けてはいけない児も存在する。パネルディスカッションでは、多領域からご参集の Expert の先生方に、各専門領域のお立場で「どう考える？頭のかたち」についてご議論いただく。

本学術集会閉会時には、皆様に幾つかの Expert opinions をお持ち帰りいただけるものと期待している。